

(参考) オイスカの活動 (オイスカホームページより)

タイ

チェンライ県の山岳地帯の貧困層を中心とした対象地域における森林保全・再生と生計向上プロジェクト

事業期間: 2016年6月～3年間(予定)

上位目標: ・森林伐採、焼畑に依存しがちな対象地域の山岳民族が、的確な土地の利用区分について理解し、森の恵みを生かした農業や家畜飼育等の持続可能な産業を導入することで、対象地域の所得向上が実現すると同時に、森林保全と更なる森林の創出を目指す。この事例をモデルケースとし、タイ国内や近隣国で発生する森林火災による煙害の軽減、当国の山岳地域における開発計画、森林造成による洪水防止対策にも寄与する。



6月21日、外務省の日本NGO連携無償資金協力により、タイにおける「チェンライ県の山岳地帯の貧困層を中心とした対象地域における森林保全・再生と生計向上プロジェクト」(以下、事業)実施のための資金贈与契約が、オイスカと在チェンマイ日本国総領事館との間で締結されました。同国は経済面で発展を見せる一方、森林の農地化や狩猟、木材利用などのため無計画な伐採が進んでいます。はげ山となり水源林としての機能は失われ、土壌の劣化や水不足をはじめ、土砂崩れや洪水などの災害や生態系の破壊が深刻化しています。事業対象地としたチェンライ県の山村は、農作物の単一栽培(モノカルチャー)が行われ、著しい森林破壊と焼畑による煙害被害が大きく、また収入の少ない貧困地域でもあります。そういった課題を解決するため、事業では森林再生のための植林および管理を行うとともに、養蜂・養豚・山菜の栽培といった生計向上プロジェクトを実施。森づくりと関連した収入向上につながる産業を生み出し、貧困を断ち切る新たな生活スタイルの定着を目指します。

(参考) 訪問地チェンライ県の概要 (web情報より)



ミャンマー、ラオスと国境を接するタイ最北の地・チェンライは、かつてタイ北部を統治したランナー王朝最初の都があった場所です。隣接するチェンマイなどと共に、現在も「ランナー文化」と称されるタイ北部独自の文化・伝統が色濃く残り、メコン川のほとりにあるチェンセーンには、ランナー王朝時代の遺跡群が、チェンライ市内には美しい寺院や文化施設が数多くあります。一方、自然豊かな山岳地帯には、さまざまな山岳少数民族や旧中国国民党軍の子孫などが暮らし、王室の別荘地があることでも知られています。

- ・チェンライ県はタイ北部に位置し、首都バンコクから北へ約600km。国境に接する。
- ・平均高度は約600m、8月は雨期で高温多湿(平均最高気温 約31℃・最低 約23℃)。
- ・日本～タイ(バンコク)は空路6時間強、時差は▲2時間。